

令和元年度第3回 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会 議事録

(開催要領)

- 1 開催日時 令和2年3月24日(火) 14時00分から16時30分
- 2 場 所 近江八幡市役所4階 第3・4委員会室
- 3 出席委員等

<委員(敬称略・順不同)>

秋村 田津夫(近江八幡商工会議所 常議員)
大嶋 英寿(近江八幡金融協議会/滋賀銀行八幡支店 支店長)
城念 久子(オレガノ副代表)
白須 正(龍谷大学 政策学部 教授) ※座長
土井 勉(一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長)
江南 仁一郎(近江八幡市 副市長)

<事業担当課・事務局>

原田 智弘(総合政策部 部長)
春田 宏和(文化観光課 副主幹)
岩越 和子(子ども健康部 次長)
南 まゆみ(健康推進課 参事/0次予防センター長)
仲野 美根子(健康推進課 課長補佐)
津田 博一(企画課 課長)
浅田 耕也(企画課 課長補佐)
栄畑 朝夕美(企画課 課長補佐)
森津 豊(企画課 副主幹)
茶谷 健之(企画課 主任主事)
橘 直樹(企画課 主任主事)
東 諭史(企画課 主事)

<議事次第>

- 1 開会
- 2 事業説明、評価・検証
- 3 全体意見交換
- 4 閉会

【配付資料】

- 資料1 : 委員名簿
資料2 : 対象事業一覧
資料3 : 事業シート
資料4 : 令和元年度第1回懇話会報告書

<内容>

1. 開会

○事務局

(座長挨拶)

○座長

本日は皆さまお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

本日は、各所属より今年度事業の振り返りとして報告をいただいた後、委員の皆さまにアドバイスをいただき、次年度の事業に活かしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(懇話会開催の趣旨、進行方法説明)

(配布資料確認)

○事務局

※以降の議事は、設置要綱第5条第2項の規定により、座長により進行。

2. 事業説明、質疑・意見交換

(1) 東近江地域広域婚活事業

企画課

事業シートNo.1 | に基づき説明

委員

- 非常にコストパフォーマンスの高い事業であると評価する。事業費の割にカップル成立数が高い印象である。
- 次年度以降に民間委託を検討するとのことであるが、むしろコスト増になるのではないかと懸念もある。職員の直接人件費を考慮してのことだと推察するが、民間委託とすると実費支出が伴うこととなるので、よく検討されたい。
- 行政機関が行っているという信頼感が大きなポイントになっており、民間委託とする場合にも、行政がサポートしていることが適切に伝わるよう工夫されたい。
- 事前講習会の内容について、ファッションなど外面要素は大切であるが、会話の内容など内面についての研修も充実すべきである。

座長

- 参加者の内、近江八幡市在住者は何名か。

企画課

- 今年度については、男性が23名中9名、女性が25名中14名である。

座長

- 県の自治振興交付金については次年度も活用できる予定か。

企画課	● 次年度についても、2市2町の広域連携により活用を予定している。
委員	● コストパフォーマンスが良いと評価される中で、あえて民間委託を検討する理由は何か。更なるバージョンアップを図るためなのか、市職員での対応に限界があるとの判断なのか。
企画課	● 行政改革の委員より、見えない経費である職員人件費負担が大きく、民間委託の方が安価に抑えられるとの意見をいただいたためである。
委員	● 男性参加者が申込件数に比べて半数程度である理由は何か。
企画課	● 男女比率を合わせるため、男性については抽選としている。
委員	● 今回参加できなかった方は、次年度に参加いただけるよう繰り越すのか。
企画課	● 年度毎に募集を行うため、申込受付を繰り越すことは考えていない。
委員	● 総合戦略における位置づけとして、「結婚・出産・子育ての希望を叶える」とあるが、目的は人口減少対策ということになるのか。
企画課	● 出生率を上げるためには、まずは婚姻数を増加させる必要があると考えている。
委員	● 今の若者たちは、結婚したくない訳ではなく、結婚して子育てをすることに不安を抱いているから結婚を躊躇するのだと考える。今の社会における少子化対策としては、他にも課題があり、それを踏まえた議論が必要である。
企画課	● 本事業の参加者については、結婚を強く希望されている方にお集りいただいている。
委員	● 参加者の年齢層はどのようになっているか。
企画課	● 参加対象は概ね30歳から45歳に設定している。過去のアンケート結果から、年齢幅を限定して欲しいとの意見が多かったことを踏まえた対応である。

- | | |
|-----|---|
| 委員 | ● 実際の参加者では、どの辺りの年齢層が多いのか。 |
| 企画課 | ● 30歳半ばの参加者が最も多い。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none"> ● 事業開始当初は、こういった取組について、どれだけ行政が関わるべきかという議論もあったが、結果も出ており概ね良い取組であるとの評価である。 ● 民間委託については、行政改革委員会での議論もあるかと思うが、民間委託をしたからといって必ずコストが抑えられるかは懸念もある。総合的に検討をしてもらいたい。 |

(2) 未来づくりキャンパス

- | | |
|-----|--|
| 企画課 | 事業シートNo.2に基づき説明 |
| 委員 | ● 本事業の実施期間はどの程度であったか。 |
| 企画課 | <ul style="list-style-type: none"> ● 平成28年度から平成30年度までの3カ年については、連続講座とグループワークを合わせて、概ね半年間としていた。今年度については、試行的に実施しており1日限定のプログラムとしている。 ● 次年度については、対象となる中高生が参加しやすい夏休みをターゲットとして、概ね3か月程度のプログラムを予定している。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ● やはり1日限定では効果の発現は難しいと感じる。 ● 人口定着を考えるうえで高校生は非常に大切な層であり、参加対象は高校生に限定してもよいのではないか。 ● 参加者数については、今年度実績(14名)程度でも問題ないと考えるが、参加者が同級生や後輩に参加して得た経験を伝えてくれるような仕組みが構築できるとよい。 ● 対象となる高校生が、将来近江八幡市に戻ってこようと考えた時に、または生業を興そうと考えた時に、誰に相談すればいいのかを明確に示せる体制づくりができるとよい。ネットワークを広げることのできる仕組みができると、未来づくりにつながる。 |
| 委員 | ● グループワーク後の自己学習等のアフターフォローはどうか。 |
| 企画課 | ● 今年度については試行的スケジュールであったこともあり、そこにまで至っていない。次年度以降は、グループワークを経て、地域の課題解決のアイデアを創出するところまでフォローする予定としている。 |

委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 水のサンプリングはどの地点を対象としたのか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 八幡堀、長命寺川、西の湖、八幡山の湧水の4か所である。 ● 実際に現場に足を運ぶことで、現在の環境がどのようになっているかを把握し、別途調査する過去からの変遷と比較することによって、未来の環境と課題を予想し、解決のアイデアを創出することを目標にしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 近江八幡にやりたいことがあって来たけれども、相談できる人がいなくて他の地域に流れてしまった人たちがいる。 ● やりたいことがあって来る若い人を迎え入れる温かさが必要である。 ● 「この人に相談したらいい」という人を何名か特定しておいてはどうか。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの受講生で、活動を継続している人たちのフォロー体制はどのようになっているのか。その体制が整っていれば、新たに来る人たちの相談にも乗れるのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 近江八幡市は第一印象が良くても、その先に繋がっていない。次のステップとして、近江八幡で何かやろうと思ってもらうためにも、相談できる人物を特定しておくべきである。 ● 話せる人がいることで、行き当たりばったりになることを回避できる。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 過去3カ年はまちづくり会社まっせへ、受講生のフォローアップを含めた業務委託を行ってきた。まっせへ積極的に相談を行っていたグループほど、その後の活動が継続している傾向が見られる。 ● 今後については、こちらから積極的にフォローアップする体制を強化する必要があると感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 何かに取り組もうとする人は、あと一步を踏み出すことに躊躇することが多いので、安心して相談できる環境づくりが大切である。地域コミュニティとして、受け入れる雰囲気づくりも大切である。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 対象とする高校生について、市内在住者に限定すべきか、市外から通学する生徒も受け入れるべきかについて、ご助言をいただきたい。

- | | |
|-----|--|
| 委員 | ● 市外から通学する高校生も受け入れてはどうか。市内高校への通学者にも参加してもらうことで、将来的に住んでもらう、仕事をしてもらうなど、市全体のネットワークに広がっていくきっかけにもなるのではないか。 |
| 委員 | ● 市内在住に限定すべきではない。間口を広くして、歩留まりを高めるような工夫も考えられる。 |
| 委員 | ● 余談になるが、市長会での議論についてご紹介したい。答えはない議論であることをご承知おきいただきたい。職員の採用にあたり、全く同点の市内在住と市外在住の2名の候補者がいたとした場合、どちらを採用すべきかという問いに対して、転入人口が増えることと、優秀な外部人材を迎え入れるという観点から、市外在住者を優先して採用とする都市経営の考え方も存在する。 |
| 委員 | ● 今年度の参加者の属性はどのようになっているか。 |
| 企画課 | ● 8割程度が市内の高校在学であり、ほとんどが市内在住である。 |
| 座長 | ● 門戸は広く受け入れるべきだと考える。
● 対象が高校生であるならば、時間を掛けてでも将来を見据えた事業設計とされたい。 |

(3) 「戦国・安土」を活かした観光プロモーション

- | | |
|-------|--|
| 企画課 | 事業シートNo.3に基づき説明 |
| 委員 | ● 事業シートNo.3とNo.5の複数事業において、同じKPI(観光入込客数)が設定されている。指標の設定にあたっては、事業毎にそれぞれ適切なものを用いることで、検証が効果的なものになる。その辺りで何か考えはあるか。 |
| 文化観光課 | ● 本事業は主に安土エリアを対象としており、同エリアに限定した観光客数も把握ができていますので、活用を図っていきたい。 |
| 委員 | ● そういった数値にも気を配ることで、取組と効果の関係性を正確に把握することができ、事業の取捨選択を含めて、その後の展開に活かしていくことができる。 |
| 委員 | ● 実績値は安土エリアに限定したものか。 |

文化観光課	● 市内全域の実績である。
委員	● ラコリーナへの来客数も含まれ、観光客増加の要因としては、その影響が大きいと考えられるということか。
文化観光課	● 十分に考えられる。
座長	● 安土エリアと旧近江八幡エリアとをどのように結びつけるのかについて、これまでから課題として挙がっていた。この解決が図られ、両エリアに相乗効果が表れることで、事業を実施するにあたってのストーリーが成り立つ。
委員	● 特産品や土産の開発に関連して、地域へ資金を循環させることが非常に難しい課題として存在している。開発・研究は商工会などが中心に進めているのか。
文化観光課	● その通りである。商工会が中心となり掘り起こしを行っていた。
委員	● 研究だけで終わることなく、成果として形になったものがあるのか。
文化観光課	● 今年度、形にまでなったものはないが、次年度には商品化など、目に見える形にしていきたい。
座長	● 今後、安土地域のミクロの観点で、どのような効果があったのか計測する試みを行うべきである。

(4) インバウンド誘致事業

文化観光課	事業シートNo.4に基づき説明 ※作成したPR動画を視聴
委員	● 新型コロナウイルス感染症の影響により、すぐには使えなくなったと思うが、これは仕方のないことである。
委員	● 終息した際には、すぐに使えるよう準備しておくことである。
座長	● 活用の場面は様々考えられるとのことであるので、準備を万端に進め、プロモーションが可能となったタイミングで、有効に活用されたい。

(5) 観光動向調査・データ分析

文化観光課 事業シートNo.5に基づき説明

- | | |
|-------|---|
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">● どこから来られた観光客かは把握できているか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none">● 県内と県外での区分けは行っているが、集計中のため現時点では確認できていない。● 京阪神、中京圏の方が中心である。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 利用交通手段については確認しているか。交通手段によって滞在時間に違いが生じてくる。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none">● 調査項目を設けて確認するようにしている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 満足度は高く出ているが、近江八幡の問題は滞在時間が短くワンポイントで立ち寄られる方が多いことである。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">● 市内の訪問地毎の調査集計はできているか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none">● 調査地点を複数設け、観光客の立ち寄り地点数調査を行っている。速報値では、平均 2.65 か所に立ち寄られているとの結果である。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">● 平均滞在時間が 4 時間ということは、市内で食事をしてもらえているということか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none">● そのように考えている。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">● 従前からの課題であったDMO法人の設立については目途が立ったということか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none">● 一歩前進したと認識している。 |
| 座長 | <ul style="list-style-type: none">● 人件費の問題も含めて、適任者が確保できていないことも課題であったが、その部分は解決したのか。 |
| 文化観光課 | <ul style="list-style-type: none">● 現時点で候補者の選定はできておらず、DMO候補法人である観光物産協会と共に探しているところである。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">● 調査手法は対面調査か。 |

文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本交通公社への委託により、インターネットを用いた非対面調査としている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 満足度については、人によってベースラインが全く異なるので、信用し過ぎると危険である。 ● 年次比較についても、回答者が異なるとベースが変わり、意味をなさなくなってしまう。 ● もう少し質問の対象項目をより詳細にすることで、より有用な調査結果が得られる。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 速報値では表示されていないが、総合満足度に加えて、自然環境や歴史、施設など分野ごとの質問項目を設けている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● トイレについては確認できているか。ルート観光の最大の弱点はトイレの整備になることが多い。
文化観光課	<ul style="list-style-type: none"> ● 移動・交通に関する項目はあるが、トイレまでは調査項目に含められていなかった。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● DMO法人設立に向けた調査としての意義はあったと評価する。今後は、継続的に必要となる数値を把握していくことが肝要である。

(6) 近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

健康推進課	事業シートNo.6に基づき説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の精神的な健康維持にとって最も悪いと考えられるのは、人間関係の希薄化である。人間関係が薄れると、外出を控えて家に閉じこもるなどの弊害が生まれる。 ● 少数であっても、常に一定数の人間関係を維持し、一人にしないことが最も有効な0次予防であるとする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康サポーターの認定数がKPIに設定されているが、女性の社会進出や家族構成の変容などにより、社会環境は大きく変わってきている。意欲はあっても、介護や地域の用事などで参加しづらいと感じる人も多いことから、職員のサポートが重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康サポーターの育成については、具体的にどのように進めているのか。

健康推進課	<ul style="list-style-type: none"> ● 本事業のコンセプトとして、身体健康維持にも増して、社会的役割や居場所を維持することによる、生活の充実度を高めていくことを重視している。 ● 同年代の友人など周囲の人間関係が減少する状況に対して、センターに訪れてもらうことで、社会的接点を作り出し、引きこもりになることを防ぐようにしている。 ● 訪れる側も、受け入れる側にもそれぞれ得るものがあるということを大切にしている。 ● 高齢者の居場所づくりだけでなく、子育て中や障がいを持つお子さんを育てておられる親のサポートの場にもしたいとして進めているが、まだうまく切り分けができていない状況である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 実績は累積値か。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 認定サポーターの実績値は何人か。
健康推進課	<ul style="list-style-type: none"> ● 77名となる。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 各取組における実績値が昨年度に比べて軒並み落ち込んでいるが、何か原因は考えられるか。
健康推進課	<ul style="list-style-type: none"> ● カフェについては、運営をしてもらっているサポーターの負担が重く、従前は毎日開店してもらっていたものを、開店頻度を減少させたことによる。 ● 昨年度は初年度に当たり、体験的に参加された方が多かったこと、オープニングイベントによる参加者が特別多かったことが原因と考えられる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度予定にあるワンデイオーナーによるイベント開催は、サポーター負担を軽減させるため、外部利用者を取り入れる目的もあるのか。
健康推進課	<ul style="list-style-type: none"> ● そのとおりである。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 0次予防の考え方は重要なことである。運営面での人の繋がりを重視しながら進められたい。

(7) 共生型居場所づくり&コグニウオーク事業

健康推進課

事業シートNo.7に基づき説明

座長

- 毎月開催とのことであるが、毎回異なる方に参加いただけているのか。

健康推進課

- 繰り返し参加されるリピーターが多く、これは良さでもあり課題でもあると捉えている。全体の約3割がリピーターである。

座長

- 参加者の年齢層についてはどうか。

健康推進課

- 60歳台から70歳台の方が中心である。

委員

- 協力企業について、どのような事業者に参加してもらっているのか。

健康推進課

- 中心は介護サービス事業所であり、看護関係の方などにボランティアで参加してもらっている。

委員

- 協力・連携する事業者にとってのメリットを想定できているか。

健康推進課

- 地域課題に協働して取り組むという社会貢献として参加いただいている。一度きりの参加となるか、継続して参加いただけているかは、事業所によって異なっている。

委員

- 必要な取組であるので、歴史や観光といった要素を取り込み、他の所属と連携して進められたい。

健康推進課

- これまでの開催では、歴史文化スポットをルートに取り入れるべく、周辺事業所などとも協議のうえ取り組んでおり、実施後には単独でも行いたいなどの声をいただいている。
- 認知症予防が第一命題であり、単に体を鍛えることを目的とするような内容にならないよう、工夫を凝らしていきたい。

座長

- 勉強できること、楽しめる工夫を取り入れながら進められたい。

(8) 安寧のまちづくり（CCRC）推進事業

企画課

事業シートNo.8に基づき説明

委員

- 静かな水辺エリアについて、以前は駐車場が多いイメージの設計であったが、そのまま継続されているか。
- 高齢者をターゲットにするのであれば、後々運転が難しくなる方が増えることも想定され、むしろ公共交通をどうするのか検討する必要性を感じるがいかがか。

企画課

- 本事業ではハード整備を中心に進めているが、将来的には最期まで暮らせるまちづくりのためのソフト整備が必要になると考えている。
- 現時点では公共交通をどのように取り入れていくかについて、検討はできていない。

座長

- 一般的な郊外型分譲住宅のようにも見受けられる。以前の懇話会でも意見が出ていたが、高齢者に配慮した何らかの特徴を持たせた内容へ修正はなされているか。

企画課

- 図面自体に大きな変更点はない。安寧のまちづくり推進協議会においても、同様のご指摘があるものと認識している。

委員

- 市当局として相応に努力していることは認識している。安寧のまちづくり推進協議会においても、計画に対して高齢者向けとする要素がどこにあるのか議論になっている。

委員

- 全国的なモデルになるようなものにしてもらい、事業価値を一層高めてもらいたい。

委員

- 限られたスペースであり、あれもこれもと詰め込むことは難しい。
- 先進地であるアメリカを見てみても、10年も経つとまちの雰囲気がからっと変わってしまう。ある程度若い世代も取り込み、世代の階層を振り分けておくことも重要と考える。

企画課

- 全世代に対応できるまちづくりとして、環境協定やデザインコードの設定を進めている。ただ、間口や段差をどうするかといった項目が中心であり、ご意見のあった公共交通に関する考え方などには至っていない。

委員

- 沖島の定住促進用住宅の整備について、何件か問合せがあったと聞き及んでいるが、実態はどのようになっているか。

企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 離島振興推進協議会を通して問い合わせはあったものの、実際の利用には至っていない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、第2次、第3次と募集を検討されているのか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 離島振興推進協議会を通じて募集を予定しているが、島民には高齢者が多く、新型コロナウイルス感染症の影響から、外部からの人の受け入れについては慎重に検討しているところである。 ● 島内での農作業体験や、食文化などの風土を体験できるプログラムなどを検討している。 ● アクションプログラムの策定にあたり、外部の意見は非常に貴重なものとなると考えており、感染症の影響が収まったタイミングで再検討したい。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 静かな水辺エリアをリーディングプロジェクトとして、沖島と老蘇エリアを並行して進めていくということか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● そのとおりである。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● 近江八幡市の特性に合わせて、地域の方の意見を取り入れながら進めていくことが肝要である。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の方に中心になってもらわないことには、うまく進まないと認識している。今後も機運の醸成を図っていきたい。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ● ロングステイプロモーションについてはどのように進めているのか。
企画課	<ul style="list-style-type: none"> ● 直接本市に申し込んでもらうものではなく、滞在プラン案を提示することで、自ら企画して訪れてもらえることを期待している。 ● 直接移住に結びつくものではないかもしれないが、関係人口づくりに資するものと考えてPRしている。

3. 全体意見交換

委員

- 年度を重ねるごとに取り組みが順調に進んでいる印象である。
- ただ、それぞれの事業で市民参加がなされているはずであるが、市民の顔が見えてこない。まちづくりの議論に参加してもらうことも重要であるが、実際に市民に出歩いてもらって、交流してもらえるよう仕向けることも大切である。

座長

- 総合戦略については 1 年間の期間延長がなされたとのことである。本日の委員の皆さまの意見を踏まえ、今後も着実に事業実施を進められたい。

4. 閉会

○閉会挨拶（原田総合政策部長）